

SCN 連続オンラインセミナー第3回

補足説明資料

(短縮形の入力、マルチワードについて)

(株) ネットアドバンス 2021年11月11日

短縮形の語尾の扱い --- n't / 'd / 's / 'llなどは、それぞれ独立した1語扱い

<n't>

why don't はヒットしない。短縮形だけ調べたいときは「**why do n't**」と入力する（表記形）。
do not も do n't もどちらも含めたいときは、n't のレンマは not なので「品詞指定」から「否定辞 (XX0)」を選び、

「do+否定辞」(基本形検索)

と入力。ただし、これだと do もレンマとなるので、does not/n't や did not/n't もヒットする。

do not/n't だけを検索したいときは、

「~W(do) ~L(not)」

あるいは

「~W(do) ~W(not|n't)」

「~W(do) ~P(XX0)」

と入力する。

→~W(...)や~L(...) などの入力方法は、「検索ヘルプ」からマニュアルを開き、目次の中の「品詞検索のヒント」のページに飛んで、説明をご覧ください。

<'d>

'd は had と would の短縮形だが、それぞれを区別して検索するのはむずかしい。

→ would の省略形である'd の形のみ見たいときは品詞指定'd を法助動詞に指定する。

would も'd も両方見たいときは、would を入力し、「基本形」検索で出る。(would, could, should, might は will などの過去形扱いではなく、それぞれが基本形扱いになっているため)

→had の省略形'd の形のみ見たいときは、'd は品詞指定で'**d を過去にする**。(助動詞の had は便宜的に過去形に分類されているため) 従って、助動詞の had を見るときは過去形の had と混じってしまう。

「had+過去分詞」で指定すれば助動詞の had は検索できる。

<'s>

・'s には、is または has の短縮形と、所有格を表す's の3種類がある。

・'s を is と has に分けるのは、品詞指定で。be 動詞の「-s 形」、have 動詞の「-s 形」を指定する。

例：「there + 's (be 動詞の-s 形を指定) + no …」構文で、there is または there 's の形両方を検索したいときは、「there + be 動詞の-s 形」を指定する。

・所有格の's は形の上では is あるいは has の短縮形と区別されないなので、品詞指定をして、「所有格、属格を表すアポストロフィ+s」である「POS」を指定する。

<'ll>

I'll, she'll, that'll など → 「I + 'll」「she + 'll」「that + 'll」などとする

will の形も両方とも含めたいなら、「I will (基本形)」などとする。

<gonna>

→ 「gon + na」とする。

going to も gonna も両方含めたいなら、「going + to」(基本形) とする。

この going は be going to do の表現では going になっており、「行く」の意味の一般動詞 go とは区別されて独立している。

<wanna>

→ 「wan + na」とする。

wanna も want to も両方含めたいなら、「want + to」(基本形) で検索する。

<ain't>

→ 「ai + n't」とする。

これは「are + not」と入力して基本形検索をしてもヒットしない。

are は be の変化形であり、基本形ではないため。「are not」「ai n't」と別々に検索するか、あるいは

「~W(are|ai) ~L(not) 」

または

「~W(are|ai) ~W(not|n't)」

「~W(are|ai) ~P(XX0)」

として検索する。

<'m>

I'm → 「I + 'm」とする。

'm も am も含めたいとき、「I+am」として「基本形」検索はできない。am は be の変化形で、基本形ではないため。別々に検索するか、あるいは「I ~W(am|'m)」として検索。

<'ve>

I've, they've など → 「I + 've」とする。

've も have も両方含めたいとき、「I +have」として「基本形」検索をすると、had も検索してしまう。「I + 「原形ではない have」」でもヒットするが、完了形を作る have と所有の意味の一般動詞 have どちらも含むことになる。

<'re>

you're, they're など → 「you + 're」とする。

're も are も両方含めたいとき、「you are」として「基本形」検索はできない。are は be の変化形で、基本形ではないため。別々に検索するか、あるいは「you ~W(are|'re)」とする。

一覧表を参照してほしい。 → <http://www.natcorp.ox.ac.uk/docs/URG.xml?ID=codes#defrobs>

マルチワードについて

BNC、WBO では CLAWS がタガーであり、群接続詞、群前置詞などの扱いにしたものには全体に1つの

品詞が付き、ひとまとめの単語扱いになっている。互いがアンダーバーで結ばれた表記になっていて、そのように入力しないと検索がヒットしない。これらの、複数語句からなる 1 語扱いの語は「マルチワード」と呼ばれている。

一覧表を参照されたい。

→ <http://www.natcorp.ox.ac.uk/docs/multiwd.htm>

あるいは、→ <http://www.natcorp.ox.ac.uk/docs/URG.xml?ID=codes#defrobs>

以下の例のように、同じ形でも文法機能によってはアンダーバーなしの形のまものものもある。また、タギングもれもあったりするので、ヒット数が少ないとかの場合には両方を調べてほしい。

out_of (場所の移動の場合は群前置詞扱い、比喩的、抽象概念のときは out of)

<BNC>

look out of window (基本形) → ゼロヒット

look out_of the window (基本形) → 245 件

look out the window (基本形) → 42 件

<CJEC>」

look out of the window (基本形) → 13 件

look out the window (基本形) → 83 件

英米の違い または 時代による変化(?)

<WBO>

look out_of the window (基本形) → 63 件 (1 億語) + 492 件 (5 億語)

look out the window (基本形) → 352 件 → 分布グラフではアメリカ、カナダが多い。

as_soon_as → as soon as possible は接続詞としてとらえておらず、このときはアンダーバーなし。

far_from → 距離を表すときは群前置詞扱い。「～どころではない」という強意の副詞句のときはアンダーバーなし。